

令和3年度 大分市立南大分小学校 学力向上プラン1 (9月)

【学校教育目標】豊かな心と知性にあふれ、たくましく行動できる子どもの育成

【学校経営の重点】学校教育目標の達成に向けて、教職員が一体となり、子どもが「自分を、学校を、地域を誇りに思う」活力ある学校づくりに向け、「考える子ども」(知)「やさしい子ども」(徳)「すこやかな子ども」(体)のバランスのとれた児童の育成をめざす。

1. 授業力の向上と各種学力向上の取組による確かな学力の定着と向上
2. 全校縦割り班活動や児童会活動、学校行事等による豊かな心の育成
3. 体育的行事と日々の取組をつなげることによる健やかな体の育成

【児童の実態】○算数科の研究を継続してきた成果として、課題に対して自分の考えを図や言葉で表現し、振り返りを書くことができる。○個人差は大きい。学年によっては、下位層が多い。○自分の考えを論理的に説明し、子ども同士で練り合いながら理解を深めていける力を付ける必要がある。○読解力が不足しているため、内容の把握ができない児童がいる。○家庭学習の習慣が徐々に身に付いてきたが、協力を得られない家庭もある。○通常学級で、特別な配慮が必要な児童がいる。

取り組みの評価内容・検証指標		1学期自己評価	2学期の取り組み
1 個に応じた指導の工夫	○単元末テストの目標達成平均点～全学年85点以上且つ、60点未満を5%以下にする。	国社理で達成(算84.0)60点以下4学年で未達成教科有り	算数では、少人数・習熟度別の学習形態の見直しをする。課題やテストの青○100点の徹底。互見授業での授業力向上。
	○各種学力調査(5・6年)及び全学年対象学力標準調査(算数)全国・大分県全項目平均以上	5年生(国・算・理)全教科平均以上達成 6年生(国・算)全教科平均以上達成	問題文の理解と語彙力の向上、書くこと、説明することに最後まで取り組む力をはぐくむ授業実践を行う。
	○「南小タイム」の計画的な実施 全学年共通した国語・算数問題集	教員回答100%	国語は「α問題集」で読解力、算数は、「スイッチ・オン」で基本問題と活用問題に取り組む。
	○テストや家庭学習の間違いのやり直し100%(青○100点の取組)	教員回答100%	全校統一した青○100点の取組を継続する。やり直しや説明の時間を確保する。
	○学校図書館活用 読書の質の向上「本を読むことが好き」児童90%以上	児童回答89.1%で目標は未達成	量と質の向上を目指して、朝の読書タイムの充実と、様々な本を読むことの推奨で理解力・語彙力の向上。
2 教員の授業力の向上	○「学校の勉強がよくわかる」児童95%以上	児童回答90.7%で目標は未達成	授業力を向上で、「わかる授業」を行う。低学力児童への個別指導に取り組む。単元末テストで定着状況を把握する。
	○新大分スタンダードの授業「めあて」「課題」「まとめ」「ふりかえり」等を位置付けた問題解決型の授業95%以上(教員)	教員回答88.6%	学力向上研修の中で、新大分スタンダードを基本とした授業や、板書、ノート指導、の交流を行い、授業力を高める。互見授業の参観を行う。
	○算数科では、4年生以上での習熟度別コース授業の計画的な実施	4年生以上で少人数・習熟度を実施	個の実態を把握し、学習内容に応じた指導形態を工夫していく。
	○授業の中で書く活動を2回取り入れた言語活動の工夫(「書くことができる」児童92%)	児童回答89.5%で目標は未達成	ノートの授業ごとの評価をし、書くことへの意欲をもたせる。苦手とする児童へ、文例を提示するなどの具体的な支援を行う。
	○校内研修への主体的な取り組み100%	教員回答97.2%	校内研の内容の計画的な取組と、時間配分を工夫する。
3 小中一貫教育の推進	○新版「家庭学習のすすめ」の定着(学年×10分+10分)85%以上	児童・保護者70.4% 教員89.7%	学力向上プロジェクトで教員への徹底をする。学級懇談や学年通信で家庭への啓発を行う。
	○豊府小との連携、情報交換による共通した取組の実施	1学期に2度南大分中で情報交換実施	単元末テストの結果や来年度に向けた教材の選択についての情報交換を行う。
	○挨拶ができる児童の育成	児童回答86.3%	継続して取り組む。
	○無言そうじの徹底	児童解答90.9%	縦割り班掃除など、全校統一した指導をする。